

# 平成26年度 事業報告書

(平成26年1月1日から同26年12月31日)

一般財団法人 運動器の10年・日本協会

## 1. 会員の状況（平成 26 年 12 月末現在）

参加団体会員	46 団体	（前年度から増減なし）
参加協力会員	9 団体	（前年度から増減なし）
支援会員	8 団体	（前年度から増減なし）
特別賛助会員	3 団体	（前年度から増減なし） （エーザイ(株)、第一三共(株)、久光製薬(株)）
賛助会員（ゴールド）	3 団体	（前年度から増減なし） （小野薬品工業(株)、中外製薬(株)、日本イーライ・リリー(株)）
賛助会員（シルバー）	5 団体	（前年度から増減なし） （旭化成ファーマ(株)、科研製薬(株)、大正富山医薬品(株)、 帝人ファーマ(株)、ヤンセンファーマ(株)）
賛助会員（ブロンズ）	0 団体	
活動支援協力	2 団体、1 個人	（九州風雲堂（株）、アステラス製薬（株）、丹羽雅之氏）

## 2. 諸会議・会合

評議員会	第 5 回	2 月 6 日(土)	学士会館	
	第 6 回	12 月 6 日(土)	学士会館	
理事会	第 1 回	2 月 1 日(土)	明治記念館	
	第 2 回	4 月 6 日(日)	如水会館	
	第 3 回	7 月 3 日(木)	如水会館	
	第 4 回	11 月 27 日(木)	如水会館	
業務執行理事会	第 1 回	1 月 22 日(水)	第 2 回	2 月 8 日(土)
	第 3 回	3 月 5 日(水)	第 4 回	4 月 3 日(水)
	第 5 回	5 月 8 日(木)	第 6 回	6 月 19 日(木)
	第 7 回	7 月 25 日(金)	第 8 回	9 月 9 日(火)
	第 9 回	10 月 20 日(月)	第 10 回	11 月 10 日(月)
	第 11 回	12 月 6 日(木)		

会員連絡協議会 4 月 6 日(日) 如水会館

出席者＞ 参加団体会員 26 団体 参加協力会員 1 団体

支援会員 2 団体 特別賛助会員 3 社 賛助会員 5 社

## 3. 主たる事業

1) 学校における運動器検診体制の整備・充実事業及び「スクールトレーナー」養成にかかわる創設の調査・研究（継続事業）

### ① 委員会の構成

担当理事	武藤 芳照	学校法人日本体育大学日体大総合研究所
委員長	内尾 裕司	島根大学医学部整形外科学教室
副委員長	高橋 敏明	愛媛大学医学部整形外科運動器学

副委員長 植松 光俊 (株)リハステージ  
(担当理事)

委員 鬼木 泰成 熊本大学医学部整形外科学教室  
川上 紀明 名城病院  
柴田 輝明 北本整形外科・埼玉県医師会理事  
大工谷新一 岸和田盈進会病院  
高橋 真 高橋整形外科医院・京都府医師会理事  
藤原 聡 神戸リハビリテーション福祉専門学校  
森原 徹 京都府立医科大学大学院医学研究科

② 委員会開催(大阪：ガーデンシティクラブ大阪)

第1回 4月26日(土) 第2回 10月25日(土)

③ 事業の概要

- 1) 『児童生徒の健康診断マニュアル』(日本学校保健会)の改定等の取り組みが円滑・適切に行われるよう、文部科学省学校健康教育課、日本学校保健会、日本医師会学校保健委員会、及び新設された日本整形外科学会学校保健委員会等と連携、協力して、情報交換、資料提示、共同作業等を推進した。
- 2) 「親子のための運動器健康サイト」の内容と仕組みを吟味・充実しつつ、児童生徒及び保護者向けの教育・啓発資料を作成し、全国に無償配布する体制を整えた。
- 3) 埼玉県、京都府、島根県、愛媛県をモデル地域として、運動器検診のための保健調査の内容、検診の実施方法と内容、事後措置の内容、健康診断に結果に基づいた健康教育の内容・方法等を具体的に実践可能な形で確立することを目指して検討した。
- 4) 「スクールトレーナー」の資格、業務内容、学校現場における位置づけと立場、地域医療体制との関係等を検討して、本協会としての「スクールトレーナー」制度の今後の基本方針について検討した。
- 5) 理学療法士の学校保健活動の実態を把握するためのアンケート調査内容を固め、日本理学療法士協会と共同で本調査を実施し、その結果を分析できる体制を整えた。

2) 中高年の運動器健康推進事業

① 委員会委員の選任

担当理事 田辺 秀樹 (田辺整形外科医院)  
委員長 田中 伸哉 (埼玉医科大学 整形外科)  
委員 織田 弘美 (埼玉医科大学 整形外科)  
宮島 剛 (埼玉医科大学 整形外科)  
奥田 憲之 (奥田整形外科医院)  
中田 代助 (中田整形外科内科クリニック)  
奥村栄次郎 (奥村整形外科)

② 委員会開催（いずれも本郷ハイツ）

第1回 4月11日（木） 第2回 6月6日（木）

第3回 7月25日（木） 第4回 9月7日（木）

第5回 10月31日（木）

③ 事業の概要

i. 骨粗鬆症の啓発とスクリーニング

今年度から中高年の運動器健康推進事業に、大腿骨近位部2次骨折予防啓発ワーキンググループを整理・統合した。

第1回と第2回委員会では、今年度はFRAXの質問票を取り入れた資料「骨粗鬆症のおはなし」を作成し、市民公開講座の参加者や医院の受診者を対象に資料を配布し、骨粗鬆症の可能性のある住民に対し専門医受診を勧める方針に転換し実行した。なお、市民公開講座では希望者に対し踵骨骨密度測定を行った。

9月に2回開催した市民公開講座の受講者260名埼玉医科大学学園祭来場者のうち骨検診を希望したものの154名に対し、「骨粗鬆症のおはなし」を配布した。その結果、合計受診者322名に対しFRAXによる骨折確率の計算と踵骨骨密度測定を施行することが可能であった。322名中193名に骨粗鬆症の可能性があり、封書により専門医受診を勧めた。

また、3医院に「骨粗鬆症のおはなし」を配布したところ、5ヵ月間で合計90名が新たに骨粗鬆症治療を開始した。現在、他施設で冊子の配布を行い、どの程度効果があるかを調査中である。「骨粗鬆症のおはなし」の配布は、骨粗鬆症の啓発およびスクリーニングの手立てとなることがわかった。

ii. 脆弱性骨折予防委員会

9月15日（月） 本郷ハイツ

出席者 松下 隆、山本智章、萩野浩、廣瀬隼、森諭史、二階堂元重  
奥村栄次郎、田辺秀樹

議事要旨

委員会の目的：脆弱性骨折を予防するために、一度骨折を起こした人を管理するツールを作成。

今回は、特に大腿骨頸部骨折を起こした人が、二次骨折予防するための管理ツールの作成を目標とする。

松下先生の意見で、この会では具体的なツールを作成するのではなく、骨粗鬆症学会やFFNによる意見の統一やツール作成を見守って、その部分を行政に伝えていくことが当委員会の仕事とすることとなった。

また、新潟の山本先生らが現在行っている、大腿骨頸部骨折の二次骨折予防手帳については新潟でのデータが出た時点で、全国的に広報するかを考える。

骨粗鬆症マネージャーとロコモコーディネーターの癒合は、実際的には無理であろう。しかし、将来的には、行政からの要望もあり、ロコモコーディネーターに骨粗鬆症マネージャーのプログラムを組み込むなどの処置ができ

れば、1回の試験で相互の資格を付与するような制度ができればいい、という意見があった。

どちらも、それぞれが資格の付与を実行しているので、今後も話し合いを続けることとした。

### iii. 大腿骨近位部2次骨折予防ワーキンググループの活動

#### ① ワーキンググループの委員

山本 智章 (新潟リハビリテーション病院)  
緒方 直史 (東京大学医学部附属病院)  
岡田 真平 (身体教育医学研究所)  
木村 慎二 (新潟大学医歯学総合病院)  
高橋 榮明 (新潟リハビリテーション病院)  
萩野 浩 (鳥取大学医学部附属病院)  
奥泉 宏康 (東御市立みまき温泉診療所)

#### ② 委員会開催

第1回 10月21日(月) 於: 本郷ハイツ

#### ③ 事業の概要

現在行われている新潟リハビリテーション病院・新潟大学が中心となって制作された「再骨折予防手帳」を用いて大腿骨近位部骨折患者の二次骨折予防を働きかける取り組みの成果と、日本骨折治療学会が中心となって行う「PTHを用いた大腿骨近位部骨折患者の二次骨折予防」の臨床研究の成果とに、上記を、FRAXを改良した問診票を用いた骨粗鬆症の早期発見の成果を加えた三つの成果を元にして行政・メディア・市民等に脆弱骨折の一時予防・二次予防の重要性」を訴え、予防制度の確率を目指すことにした。

新潟リハビリテーション病院の山本先生が制作した「再骨折予防手帳」は現在5千部のみしか制作がなされていないため、来年度に全国的に展開できるよう賛助会員各社に働きかけ部数の増刷を図る方針。また、学会認定の骨粗鬆症専属のナースやコーディネータを養成する考えもあり、骨粗鬆症学会に協力していく方針。

### 3) 運動器疼痛対策事業の調査・研究事業

- ① 事業担当理事 : 牛田享宏、菊地臣一、戸山芳昭  
担当委員 矢吹 省司 福島県立医科大学リハビリテーションセンター  
内山 徹 内山整形外科  
三木 健司 近畿大学整形外科  
池本 竜則 NPO 法人いたみ医学研究情報センター  
住谷 昌彦 東京大学緩和ケア診療部  
山口 重樹 獨協医科大学ペインクリニック  
福井 聖 滋賀医科大学ペインクリニック  
松原 貴子 日本福祉大学理学療法学  
その他 (加茂淳、小川節郎)

② 委員会開催 毎月1回運営会議を開催、事業の推進を進めている。

③ 事業の概要と進行状況

i) 運動器の痛みに対する薬や治療方法などについて集約化して情報を集約し発信する事業

HPを通じて発信する事業を推進した。この事業は、運動器の10年・日本協会のHPに『私たちの「運動器の痛み」について考えてみよう』のタイトルで、痛みについて分かりやすく解説を掲載、また毎月専門家のレポートを掲載し、一般市民の理解に努めている。

ii) 運動器の痛み市民公開講座の支援・共催

広報活動の一環として運動器の痛みに関する市民向け公開講座を「運動器の10年・日本協会」として共催運営を行い、今年度は以下の通り開催する。

5月31日(土) 高知市文化プラザかるぽーと(高知県高知市)

テーマ『医者は、自分が痛いときにはこう治す』

1) 新井健一先生(愛知医科大学学際的痛みセンター)

「あいたたた、痛いなあ!! 漢方何飲もか? 自身の場合と診療での経験」

2) 河野真介先生(済生会松山病院整形外科)

「自ら苦しんだ腰痛と坐骨神経痛」

9月28日(日) 神戸市三宮研修センター(兵庫県神戸市)

テーマ『長引く痛みの対処法!!』

1) 三木健司先生(近畿大学整形外科)

「痛みは危険信号? 痛みの心身への伝達」

2) 芦原睦先生(中部労災病院心療内科)

「痛みに対する心療内科的アプローチ」

10月18日(土) ソラシティホール(東京都千代田区神田駿河台)

テーマ『からだの慢性的な痛みセミナー~QOL向上に向けて~』

総合司会: 山田芳嗣先生(東京大学麻酔科・痛みセンター)

1) 筑田博隆先生(東京大学整形外科)

「痛みをおこすせぼねの病気」

2) 住谷昌彦先生(東京大学緩和ケア診療部)

「がんに関連した手足の痛みとその対処」

iii) 医療者向け研修会の後援

6月22日(日) 名古屋産業労働センターウインクあいち

第4回医療者研修会 慢性の痛みワークショップ(参加者67名)

研修プログラム

- ・慢性痛症候群とは
- ・痛みの治療、Interventionの適応と限界
- ・痛みと心理療法
- ・電話相談によるCBTの効果
- ・Redflagの発見
- ・慢性痛に対する心療内科の視点
- ・慢性痛に対する運動療法
- ・Opioidの使い方・止め方
- ・診断書の正しい書き方・考え方

11月24日(月) 日本青年館ホテル(東京都新宿区)

第5回医療者研修会 慢性の痛みワークショップ(参加予定45名)

## 研修プログラム

- ・家族関係にも目を向けよう
- ・神経障害性疼痛の診断と薬物療法の考え方
- ・がん疼痛と慢性疼痛のオピオイド両方の違いについて
- ・痛みと虚偽性障害
- ・Intervention の適応と限界
- ・認知行動療法について
- ・初めての認知行動療法
- ・慢性痛の運動療法

## 4) 運動器外傷の救急医療に関する委員会

### ① 委員会の構成

担当理事	三上 容司	横浜労災病院運動器センター
委員長	三上 容司	横浜労災病院運動器センター
委員	井口 浩一	埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター
	黒住 健人	帝京大学外傷センター
	坂本 哲也	帝京大学救急医学
	鈴木 卓	帝京大学外傷センター
	土田 芳彦	湘南鎌倉総合病院外傷センター
	野田 知之	岡山大学整形外科

### ② 委員会開催

第1回 平成26年1月18日(土) 於：東京、住友不動産芝公園タワー

出席者 専務理事：松下隆、担当理事、委員長：三上容司

委員：井口浩一、黒住健人、坂本哲也、鈴木 卓、土田芳彦

ゲストスピーカー：新藤正輝

欠席者 委員：野田知之

議事

#### i. オーストラリア視察旅行報告(黒住委員)

参加メンバー：松下、三上、井口、黒住

日程：平成25年11月23日(土)～30日(土)

訪問施設：25、26日 Brisbane の Princess Alexandra Hospital、  
Prof. Schuetz 訪問

28、29日 Melbourne の Alfred Hospital 訪問

#### ii. JOTR (Japan orthopaedic trauma registry) について

新藤正輝(ゲストスピーカー、帝京大学 外傷センター)

#### iii. JTDB (Japan trauma data base) の改定作業の進捗状況について(坂本委員)

第2回 平成26年5月9日(金) 於：香川、県立中央病院 会議室

出席者 担当理事、委員長：三上容司、委員：黒住健人、土田芳彦、  
野田知之

欠席者 専務理事：松下隆 委員：井口浩一、坂本哲也、鈴木卓  
議事

- i. 運動器外傷患者の登録について
- ii. 日本医師会への提案について
- iii. 海外視察旅行報告書作成について

## 5) 運動器の健康に関する広報事業

担当理事 新井 貞男 担当委員 土原 亜子

### ① 広報季刊誌「Moving」の11、12、13、14号の4冊を発行

平成25年度に引き続き平成26年度も季刊(2, 5, 8, 11月)で4号を発行した。好評のフロントページは大相撲の振分親方、左手のピアニストの智内威雄さん、元プロ野球投手の工藤公康さん、元女子マラソン選手の増田明美さんを取材、「私と運動器」について語ってもらった。

また、当協会の参加団体の活動状況を順次紹介するコーナーでは順次4団体を紹介した。年度内の発行数は各4万の計16万部のほか、第13号の工藤氏は好評で、少年野球関係団体からの配布要望があり、4万部を増刷し配布した。合計194,874部(前年度15万4千部)を配布した。

### ② BJDロゴマークバッジの頒布

BJDバッジ(2010~2020)を年度内、有償配布は124個、666個を無償配布した。

### ③ 協会活動紹介パンフレットの配布

協会活動内容紹介パンフレットを全国各地で開かれる市民公開講座等に年度内2,500部を配布した。

### ④ 参加団体とのサイトのリンク

「運動器の10年」世界運動を啓発するため、参加団体とホームページのリンクを要請、年度内に40団体とサイトのリンクを実施した。

### ⑤ 特別賛助会員の広報協力

#### i. 久光製薬(株)

久光製薬(株)の協力で、運動器を広く周知するため制作していた「ご存知ですか運動器」を平成26年度には一般からの要望に300冊を配布した。

また、少年野球の肘や肩の障害を予防するため、「毎週月曜日はセルフチェックの日」として肘の曲げ伸ばしに異常がないか確認する資料を少年野球実態調査協力チームに10,751部、少年野球指導者講習会受講者に5,750部配布した。当協会のホームページからもダウンロードできるようにした。

#### ii. エーザイ(株)

2005年に発刊した、まんが本「大人も知らないからだの本」がその後も好評で、2013年1月に第2版をエーザイ(株)の協力を得て2万部発行。年度内に小学生を対象にしたグループや一般の希望者に1,010冊を無償配布した。

#### iii. 第一三共(株)

当協会季刊誌「MOVING」の制作を支援、年度内全国各地で開催された学



会や市民公開講座で、季刊誌の配布協力を得た。

また、学校保健委員会で制作した「親子のための運動器相談サイト」を医療機関はじめ学校などで配布できるよう資料の作成、配布を準備している。平成 27 年春には発行予定。

## 6) 成長期のスポーツ外傷予防啓発事業

### ① 担当委員会の構成

委員長	高岸 憲二 (群馬大学医学部)
副委員長	別府 諸兄 (聖マリアンヌ医科大)
同	植松 光俊 (㈱リハステージ)
委員	岩間 徹 (岩間整形外科)
	岡部 敏幸 (掛川市立総合病院リハビリテーション科)
	坂本 雅昭 (群馬大学大学院保健学研究科)
	田鹿 毅 (群馬大学医学部)
	田和 一浩 (全日本野球協会)
	帖佐 悦男 (宮崎大学医学部)
	正富 隆 (行岡病院)
	松浦 哲也 (徳島大学医学部)
	宗像 豊巳 (全日本軟式野球連盟)
	渡邊 幹彦 (全日本野球協会)

### ② 委員会開催

3月 15日(土)	第1回 全日本野球協会会議室 (サピアタワー)
10月 30日(木)	小委員会 本郷ハイツ
12月 16日(火)	ドクター関係委員会 本郷ハイツ

### ③ 事業の概要

#### i) 中学・少年野球関係団体との懇談会開催

3月15日(土)正午から都内で第2回目の中学・少年野球関係団体との懇談会を開催した。懇談会には、わが国の中学・少年野球7団体(硬式・軟式)のうち5団体の代表者と全日本野球協会、日本野球連盟の事務局長が参加した。当委員会からは11名(1名欠席)が出席した。

懇談会に先立ち、各団体に予め障害予防の実態についてアンケートの提出を要請、各競技団体の現状報告がなされた。その中で全日本軟式野球連盟は平成23年に「投手は一人1日1試合しか投げられない。試合は7回で特別延長は10回まで。ダブルヘッダーの場合は必ず投手を代えること」とする投球回数制限を設けたことや、当協会との連携で一昨年から全国9地区で指導者を対象にスポーツ障害予防講習会を開催して啓発に取り組んでいる改善策が報告された。

一方、硬式野球5団体は、平成27年度から「1日7イニングとする。連続する2日間で10イニングス以内とする。また、1日に複数試合に登板した投手および

連続する2日間で合計5イニングスを超えた投手は、翌日は投手または捕手として試合に出場することはできない」とする中学野球の投球制限を設けた。平成26年度は周知期間としている。

各団体から投球回数制限の具体的な推進計画が報告され、障害予防への取り組みが理解されている現状が確認できた。

しかし、定期検診や障害予防の講習会開催については適当な講師が見つからないことや経費の課題を挙げている。

最後に、当委員会が監修し、久光製薬(株)の協力で制作した「セルフチェック」の資料を配布し、日ごろのセルフチェックの励行を要請した。

#### ii) 指導者講習会の開催

今年度も引き続き、全日本軟式野球連盟と協力して全国9地区で開催される指導者講習会に講師の適任者を派遣することとした。26年度は埼玉が大雪のため中止、宮城では24名だけの参加となった。7地区8会場での参加者は989名。

\*上段はドクター、下段は理学療法士

1月26日(日)	今井晋二	(滋賀医科大学医学部・准教授)
近畿(滋賀)	鳥居久典	(角屋整形外科病院)
2月8日(土)	高橋敏明	(愛媛大学附属病院・准教授)
四国(愛媛)	上池浩一	(整形外科つばさクリニック)
2月2日(日)	宮崎剛	(福井大学医学部・助教)
北信越(福井)	山崎孝	(福井総合クリニックリハビリテーション科)
2月2日(日)	阿部雅志	(藤枝総合病院・整形外科部長)
東海(静岡)	小林敦郎	(順天堂大学医学部附属病院)
2月16日(日)	伊藤雄人	(清和記念病院・医師)
北海道(旭川)	福田浩史	(旭川医科大学病院)
2月16日(日)	高原政利	(泉整形外科病院・副院長)
東北(仙台)	小野秀俊	(泉整形外科リハビリテーション部)
2月16日(日)	高岸憲二	(群馬大学医学部・教授)・・・雪のため中止
関東(埼玉)	杉崎伸也	(川口工業総合病院・教授)
12月6日(土)	岩間徹	(岩間整形外科・理事長)
関東(東京)	原田長	(社会学技術学院)

#### iii) セルフチェックの資料配布

少年野球の選手たちのスポーツ外傷の早期発見のため、児童・生徒や指導者、保護者が日々の活動現場でできるチェックマニュアルが、特別賛助会員の久光製薬(株)の支援で制作、各地の指導者講習会などで「土日の試合の後、毎週月曜日はセルフチェックの日」を励行するよう、ドクターから配布した。

#### iv) 少年野球検診データの収集について

少年野球選手の検診について、まとめた基礎項目により各地で実施されている検診のデータを収集する作業を検討した。

なお、データの収集に当たっては2次検診の医療機関の紹介リスト作成の必要性やその後の治療内容と回復までの期間などの情報収集にも取り組むマニュアルを検討することとした。

また、データ収集に当たっては、予め統計学上の整理をしたうえで進めることとし、松浦、正富両委員を中心にワーキンググループで検討することとした。具体的には平成27年度以降の継続事業とした。

v) 少年野球実態調査（小学生）

ワーキンググループでは検診のデータを収集する前に、アンケートによる実態調査の必要性を提案、松浦委員が徳島県で展開したアンケートを土台に小学生の指導者と選手に対するアンケートを作成した。

この実態調査は、全国の硬式、軟式野球を対象に実施、全日本野球協会の協力を得て、全日本軟式野球連盟傘下の都道府県連盟加盟チームから各10チーム、硬式野球は日本野球連盟傘下5連盟の登録人数に応じた割合で50チームを対象に、合計1万人の小学生から回答を得る企画を立案した。

この実態調査はこれまでに類を見ない規模の調査になることから日本整形外科学会スポーツ委員会と合同事業とした。

またこの実態調査は、個人情報の取り扱いに留意した上で原則記名式とし、平成27年度にも追跡調査を行い、投球回数制限や障害予防知識向上の効果などを分析することとしている。

なお、平成26年度の実態調査のまとめは、平成27年3月4日(水)の全日本野球協会理事会で報告、広報を行う予定にしている。

vii) 講習会講師派遣

年度内一般から申請のあった下記の成長期のスポーツ外傷予防に関する講習会に講師を派遣した。

① 2月9日（日）神戸市少年団野球リーグ指導者講習会

派遣講師；大阪・行岡病院 正富 隆 副院長

神戸市内の少年団野球リーグ指導者約400人を対象に座学を実施

4. 「運動器の10年・日本賞」の公募、表彰

1) 25年度入賞者の表彰

25年度の公募で入賞した7件の関係者を招き、2月1日（土）に明治記念館で表彰式を行った。表彰式には当協会理事、監事、評議員をはじめ特別賛助・賛助会員各社など46名が参加した。表彰者には記念のトロフィーと賞金の目録が贈られた。入賞者は次の通り。（敬称略）

運動器の10年・日本賞	宮山 広美（千葉市若葉保健福祉センター）
	「地域の運動（ラジオ体操）グループづくりと健康づくり」
同	・優秀賞 東山 礼治（英志会渡邊病院整形外科）
	「学校の運動会における「ムカデ競走」に伴う外傷予防への取り組み」

- 同 ・優秀賞 橋爪 洋（和歌山県立医科大学整形外科）  
「エビデンスに基づく高齢者運動器疾患予防体操プログラムの開発と効果検証」
- 同 ・奨励賞 宮腰 尚久（秋田大学大学院整形外科学講座）  
「寝たきり予防の高齢者運動器検診」
- 同 ・奨励賞 西村 明展（三重大学大学院スポーツ整形外科）  
「ウォーキング教室・スロージョギング教室」
- 同 ・奨励賞 市川 徳和（医療法人永島会永井病院）  
「地域における高齢者健康増進活動の取り組み」
- 同 ・特別賞 風間 深志（障害者アクティブ・ロコモーションズ・ジャパン）  
「希望を見つめる障害者の冒険・キリマンジャロ登山とゴビ砂漠ラクダキャラバン」

## 2) 26年度の選考結果

26年度の公募に対し、11月末日の締め切りまでに全国から25件の応募があった。審査は当協会の理事5名と賛助会員（ゴールド）3社から次の通り審査に加わってもらい、10月24日（木）に審査委員会を開催して厳正な審査を行った。審査委員と審査結果は次の通り。

審査委員 松下 隆（専務理事）、武藤 芳照、稲波 弘彦、新井 貞男  
三上 容司（以上理事）  
寺西 勝司（小野薬品工業株）田中 明生（中外製薬株）  
間渕 清貴（日本イーライリリー株）

### 表彰者

運動器の10年・日本賞 永野 靖典（高知大学リハビリテーション部）  
「高知県黒潮町における三世代ふれあい健診」

- 同 ・優秀賞 橋爪 洋（和歌山県立医科大学整形外科）  
「受身から攻めへの発想転換：ロコモ予防の取り組みは住民の受療行動を変化させるか？-和歌山県美浜町の挑戦」
- 同 ・優秀賞 柳沢 和子（長野県東御市健康福祉部子育て支援課 「運動あそび専門保育士部会」）  
「子どもたちの動く喜びを保育士が創る取り組み“レッツ15タイム”」
- 同 ・奨励賞 千田 益生（岡山大学病院総合リハビリテーション部）  
尾崎 敏文（岡山大学整形外科）  
「ケーブルテレビを利用したロコモティブシンドローム（ロコモ）予防」
- 同 ・奨励賞 佐久間 真由美（新潟大学医学部整形外科）  
「多職種連携「動く喜び、動ける幸せ」支援セミナー

- 同 ・奨励賞 大腿骨近位部骨折予防・治療と生活支援への取り組み」  
千葉 大輔（弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座）  
「岩木健康増進プロジェクト」
- 同 ・奨励賞 星野 裕信（浜松医科大学整形外科）  
「中山間地域自治体における運動器の健康の啓発と運動器  
検診の導入」
- 同 ・奨励賞 吉井 智晴（東京医療学院大学）  
「お互い様の地域支援活動～水曜会の活動」

上記入賞者には日本賞（50万円）、優秀賞（25万円）、奨励賞（10万円）をそれぞれ贈り、平成27年1月24日（土）に同じく明治記念館で表彰式を行う。

## 5. BJD国際本部との連携

### 1) BJD国際会議

10月12日（日）、13日（月）の2日間、BJD国際本部があるイギリス・ロンドンで「2014 ワールドネットワークカンファレンス」が開催され、松下専務理事と山本智章・脆弱骨折予防委員会委員長の2人が参加した。

山本委員の報告書要旨

会議ではまずBJDのChairであるAnthony Woolf教授から2012年にLancetに報告されたGlobal Burden of Disease studyが示され、様々な疾患や不健康状態においてmusculo-skeletal disordersがさらに大きな課題になっていることが強調された。

続いて国際的な組織や各国からの現状や取り組みが次から次へと紹介され、さらに小テーブルに分かれてのテーマ別のグループ討論が2日間にわたって行われた。

グローバルに進む人口の高齢化は世界共通の課題として関節症や脆弱性骨折の対策が話し合われるとともに、発展途上国では青壮年の働き盛りの腰痛や交通外傷が社会的な課題になっていることなど、各国参加者からの生の声で運動器疾患への啓発事業が特色を持って行われていることが改めて分かった。

日本は世界一の長寿国であり、世界断トツの超高齢社会です。その日本が健康長寿の延伸に向けてどのように取り組み、それを実現できるかを世界に発信することが必要であると強く感じた。

Summitで、「no data, no disease」という言葉が印象に残った。われわれ医療者が地域社会の保健課題を明らかにし、その解決策を考案し、さらにpolicy makerに成果を示すことができたなら、もっともっと健康的な社会の実現が可能になるはず。そのためにはわれわれ自身が率先してactionを起こさなければならない、そしてdataを積み重ねなければならない。

「BJD - NANの各国が協力して行動し、運動器障害のプライオリティを高める働きかけを進めよう」という雰囲気の中で日本の立ち位置を考えさせられた。日本は少子高齢化社会のトップランナーであり、これまでの活動の成果として、健康・教育政策の中での運動器の位置づけを高めつつあることから、国際的に還元できる情報があると思われた。また、BJD全体として活動に有用な質の高いツールの開発等が進ん

でおり、今後も情報を得ながら、国内組織強化に活用していくべきであろう」との報告があった。

## 2) e - poster の提出

9月に、2014年の諸行事について e - poster にまとめ、BJD国際本部に提出した。主な内容は、少年野球の肘、肩のけがが多いことから全日本野球協会の協力を得て全国の硬式、軟式の小学生1万人の実態調査を実施していることと、文部科学省の学校保健安全法施行規則の一部が改正され、2016年から学校の健康診断に運動器の検診が実施されることになったことを報告した。

## 6. 運動器関連事業申請の許可

年度内、以下の運動器関連事業の後援申請があり、許可した。

- ① セミナー「ロコモ対策 運動器疾患／骨・関節フォーラム (26年度10件開催)  
共催>都道府県臨床整形外科医会、中外製薬(株)、(株)メジカルビュー社
- ② 健康スポーツフォーラム全軟ふくほくスポーツ指導者講習会  
後援>西日本新聞社、福岡県体育協会、福岡県教育委員会
- ③ 第9回東北腰痛フォーラム (4月5日開催)  
主催>小野薬品工業(株) 企画協力>東北腰部脊柱管狭窄研究会
- ④ 城東骨ケアフォーラム (6月27日開催)  
共催>城東骨ケアフォーラム、エーザイ(株)
- ⑤ 「骨と関節の日」イベント告知ポスターチラシにロゴマーク使用申請、  
使用期間 (6月末~10月末)  
共催>日本臨床整形外科学会、博報堂メディカル
- ⑥ 「標準整形外科学(第12版)」(株)医学書院医学書籍編集部よりロゴマーク使用申請
- ⑦ 第14回大学生・高校生のためのスポーツ医学セミナー (協力依頼)  
主催>一般社団法人 日本整形外科スポーツ医学会  
8月23日(土) 大阪市立大学医学部
- ⑧ 「10月10日は転倒予防の日」広告共同事業 (10月10日 朝日新聞全国版)  
日本転倒予防学会